

本資料集を推薦します（五十音順・敬称略）

もっと早くこの資料に遭遇したかった

北海道大学名誉教授（建築史・意匠学） 角 幸博

もっと早くこの資料に遭遇したかった。偽らざる気持ちである。1996 年以来樺太の建築史研究を続けてきたが、これまでに詳細な市街地図に出会うことはなかった。今回発見の火災保険特殊地図は、土地区画や地番、道路幅員、建物概形、構造など、多彩な情報が盛りこまれている。この情報を活用すれば、古写真の街並みや建物の同定、市街地の形成など、研究展開の可能性は格段に飛躍する。樺太研究にとって必携の資料といえる。

詳細な情報を提供してくれる貴重な知的インフラ

京都大学東南アジア地域研究研究所助教（樺太移民社会史） 中山大将

都市に暮らす人々は日々街路を歩き学校へ駆け職場へ通い友を訪ね商店へ足を運び我が家へ帰る。当時の人々に当たり前であったその日々に、今を生きる我々はどれだけ近づけるだろうか。回想記や証言の中に出てくる、細々とした、けれども克明に記憶された街路や番地名、思い出の場所、それらの情報がどれだけ我々の手からこぼれ落ち続けて来ただろうか。既知の市街地図群からは得られなかった詳細な情報を提供してくれる本地図集成は貴重な知的インフラである。

戦前期樺太都市の土地利用情報の宝庫

奈良大学文学部地理学科教授（歴史地理学） 三木理史

戦前期樺太の2.5 万分1を上回る大縮尺図といえば、国書刊行会編『樺太市街地図・商工人名総覧』が利用されてきたが、縮尺などの地図情報が不正確な図版を含む憾みがあった。それ以外は島内各市町村発行の要覧や北海道立文書館所蔵『樺太庁文書』の添付地図程度しか残存が確認できず、それが樺太都市研究の足かせになってきた。復刻される火災保険特殊地図の多くは1200分1から2000分1の縮尺で作製された「住宅地図」に相当し、それ以外に収録された市街図も併せて樺太の都市研究を飛躍的に進め得る基礎資料として推薦する。

おすすめ
します

歴史学、歴史地理学、地理学、都市史、建築史、都市計画学、地図史、社会学、
樺太史、公共図書館、大学図書館

戦前期外地火災保険特殊地図集成

戦前期台湾火災保険 特殊地図集成①

2018年
2月刊行

——台北・基隆・台中・彰化

辻原万規彦・青井哲人〔編集〕

辻原万規彦・青井哲人・廖泫銘〔解説〕

定価（本体100,000円＋税） ISBN978-4-7601-4951-3 C3325

戦前期外地火災保険特殊地図集成

戦前期台湾火災保険 特殊地図集成②

2018年
4月刊行

——台南・嘉義・高雄・屏東・花蓮港

辻原万規彦・青井哲人〔編集〕

辻原万規彦・青井哲人・廖泫銘〔解説〕

定価（本体100,000円＋税） ISBN978-4-7601-4952-0 C3325

〈注文書〉
書店印

戦前期外地火災保険特殊地図集成

戦前期樺太火災保険特殊地図集成

——付・樺太庁発行市街図・旧版海図ほか

辻原万規彦・角哲〔編集・解説〕

予価（本体100,000円＋税） ISBN978-4-7601-4953-7 C3325

2018年
6月
刊行予定

お名前

ご住所（〒 - ）

TEL （ ）

ご所属

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13 Tel 03-3830-1891 Fax 03-3830-5337

新たに発見された大縮尺の 樺太都市地図を一挙復刻！

千代田区立日比谷図書文化館で発見された外地の「火災保険特殊地図」（1933～34年、地図研究所作成）を全3回で刊行する本シリーズ。樺太編では、火災保険特殊地図のほか、新たに見つかった樺太庁作成の都市地図や海軍省作成の旧版海図などもあわせて復刻する。従来の外邦図は縮尺が小さく、詳細なデータは読みとれなかったが、このたび見つかった大縮尺（1／1200（1／2500）の火災保険特殊地図には、保険会社が保険料率を算定するために必要とした情報（住居の所有者や建物の構造、名称、用途、道路の幅員や消火栓の位置など）が細かく記載されている。そのため、日本統治時代の市街地の復元や現在の都市景観との比較を可能にしてくれる、きわめて貴重な情報源となるであろう。

戦前期外地火災保険特殊地図集成

戦前期樺太 火災保険特殊 地図集成

付・樺太庁発行市街図・旧版海図ほか

〔編集・解説〕 辻原万規彦（熊本県立大学教授）・

角哲（名古屋市立大学准教授）

〔体 裁〕 A3判上製・250頁

〔別冊解題〕 B5判並製・40頁

〔予 価〕 本体100,000円 ※価格税別

〔刊 行 日〕 2018年6月

ISBN978-4-7601-4953-7 C3325

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13

Tel.03-3830-1891 Fax.03-3830-5337

URL <http://www.kashiwashobo.co.jp>

E-mail eigy@kashiwashobo.co.jp

取
扱
店

収録地図一覧			
都市名	所属州庁	地図タイトル	数量
豊原町	豊原支庁	一覧図(編者作成)	1
		索引(昭和9年12月)	1
		地番図(推定 1/1,200、昭和9年12月、No.40欠)	45
落合町	豊原支庁	樺太庁発行『豊原市街図』(1/8,000、昭和5年11月)	1
		市街図(1/4,000)	1
		樺太庁発行『落合市街図』(1/4,000、昭和3年10月)	1
大泊町	大泊支庁	一覧図(編者作成)	1
		索引(昭和9年12月)	1
		市街図(1/16,000、昭和9年12月)	1
		地番図(推定 1/1,200、昭和9年12月)	49
		大泊町役場編纂『大泊市街全図』(1/8,000、大正12年5月)	1
		樺太庁発行『大泊市街図』(1/8,000、昭和3年1月)	1
		北進堂書店発行『大泊市街地図』(1/8,000、昭和10年か)	1
		海軍省水路部発行『大泊港』(1/20,841、大正14年7月)	1
		海軍省水路部発行『大泊港』(1/20,841、昭和6年6月)	1
留多加町	大泊支庁	市街図(1/6,000)	1
		樺太庁発行『留多加市街図』(1/8,000、昭和3年10月)	1
		海軍省水路部発行『亞庭灣諸分圖』(1/29,177、昭和4年11月)	1
本斗町	本斗支庁	市街図(1/15,000)	1
		樺太庁発行『本斗市街図』(1/8,000、大正14年5月)	1
		海軍省水路部発行『樺太西岸諸分圖第1』(1/36,500、昭和6年6月)	1
真岡町	真岡支庁	一覧図(編者作成)	3
		方面図(1/4,000)	3
		地番図(推定 1/1,200、昭和9年12月、No.3とNo.10欠、No.16のみ 1/3,000 程度)	14
		樺太庁発行『真岡市街図』(1/8,000、大正14年5月)	1
		真岡町役場発行『真岡町市街図』(1/4,000、昭和12年6月)	1
		海軍省水路部発行『真岡港及幌泊泊地』(1/14,590か、大正15年1月)	1
		海軍省水路部発行『真岡港 / 幌泊泊地』(1/14,590、昭和6年3月)	1
野田町	真岡支庁	市街図(1/6,000)	1
		樺太庁発行『埴田市街図』(1/4,000、昭和3年10月)	1
		海軍省水路部発行『樺太西岸諸分圖第2』(1/24,500、昭和9年2月)	1
泊居町	泊居支庁	市街図(1/6,500)	1
		樺太庁発行『泊居市街図』(1/4,000、昭和3年10月)	1
		(海軍省水路部発行『樺太西岸諸分圖第2』(1/24,500、昭和9年2月))	-
恵須取町	泊居支庁	市街図(1/10,000)	1
		樺太庁発行『恵須取市街図』(1/8,000、昭和3年10月)	1
		(海軍省水路部発行『樺太西岸諸分圖第2』(1/12,000、昭和9年2月))	-
名好町	泊居支庁	(北名好)市街図(1/4,000)	1
		(海軍省水路部発行『樺太西岸諸分圖第2』(1/36,000、昭和9年2月))	-
知取町	元泊支庁	市街図(1/8,500)	1
		樺太庁発行『知取市街図』(1/4,000、昭和3年1月)	1
敷香町	敷香支庁	一覧図(編者作成)	1
		市街図(1/15,000)	1
		地番図(1/2,500)	4
		洋品タナカ発行『敷香町市街全図』(1/2,500、昭和5年12月)	1
		海軍省水路部発行『樺太東岸諸分圖第3』(1/36,500、昭和8年4月)	1

樺太庁作成都市地図や海軍省作成旧版海図も併録した、樺太都市史データベースの決定版！

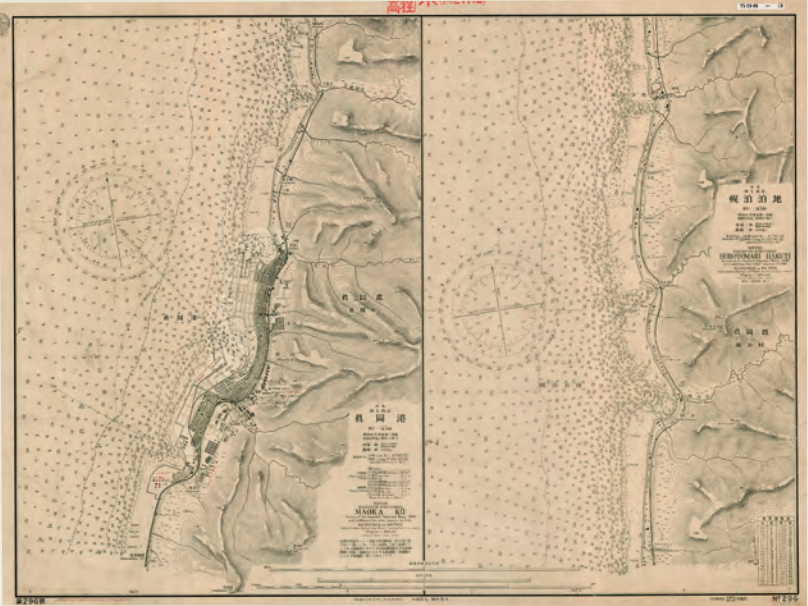
詳細な情報が詰まった大縮尺かつ精確な地図で明らかにする、都市の歴史と現在

《本資料集の特長》

- 千代田区立日比谷図書館文化館で発見された戦前期樺太の「火災保険特殊地図」計127枚を復刻。これまで存在が知られていなかった貴重な資料に容易にアクセス可能となる。
- 各地図には建物の構造や名称、用途、道路の幅員や消火栓の位置などが詳細に記載されており、日本統治時代の樺太の都市景観の復元や現状との比較検証が可能となる。
- 他の大縮尺地図と比べて精度が高く、かつ他の大縮尺地図からは読みとれない多くの情報が詰め込まれており、幅広い研究で利用可能なデータベースとなる。
- 樺太編は火災保険特殊地図に加え、これまで言及されてこなかった樺太庁作成の都市地図や海軍省水路部作成の旧版海図なども併録する。
- 専門家による的確な解説を収録した別冊を付す。

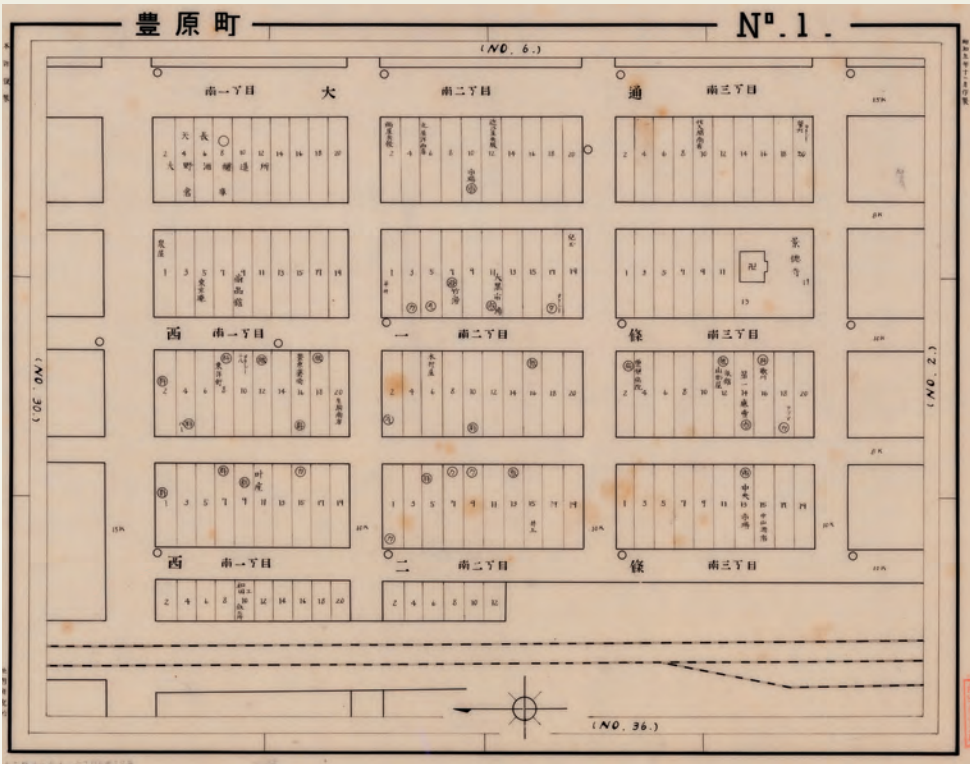
「火災保険特殊地図」とは

火災保険の料率算定のための基礎資料として、昭和初期から昭和30年代にかけて、民間会社によって作製されたおよそ1／1200～1／2500の大縮尺地図。防火や火災の危険性に関する建物の構造や階高、用途、消火栓の位置や道路の幅員などが記入され、保険会社に納入された。作成者としては、1928(昭和3)年に沼尻長治が設立した地図研究所(現都市整図社)がよく知られている。復刻の原本である千代田区立日比谷図書館「内田嘉吉文庫」所蔵の火災保険特殊地図は、都市整図社が1933(昭和8)9年に作製したものである。



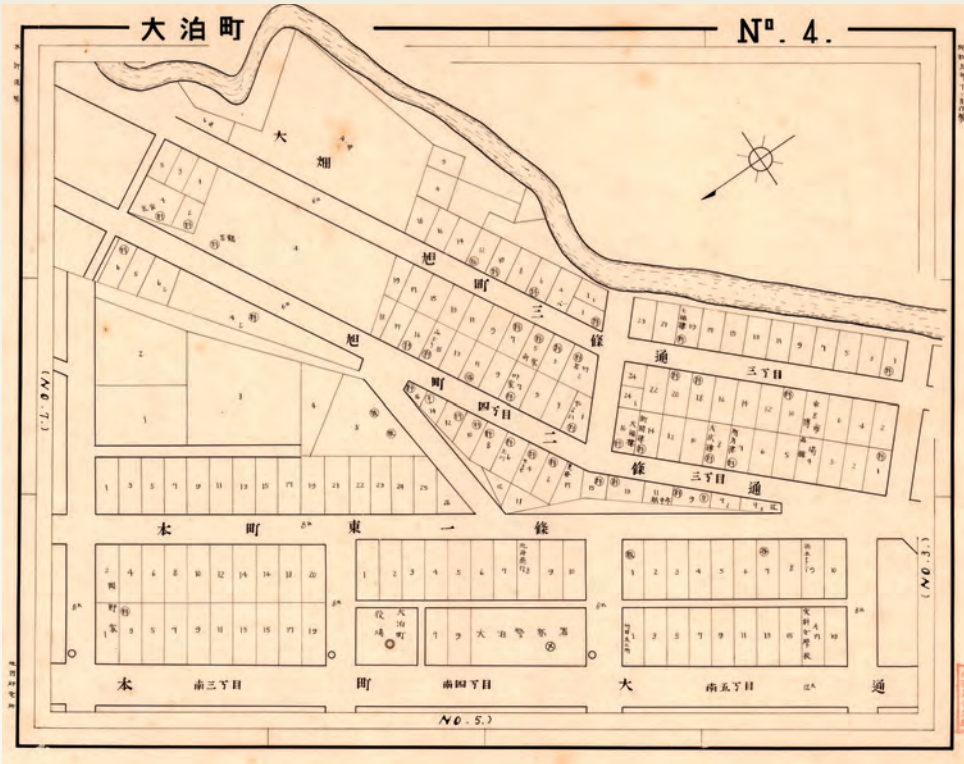
海軍省水路部発行『真岡港、幌泊泊地』(海上保安庁海洋情報部所蔵)

(縮小率16%)



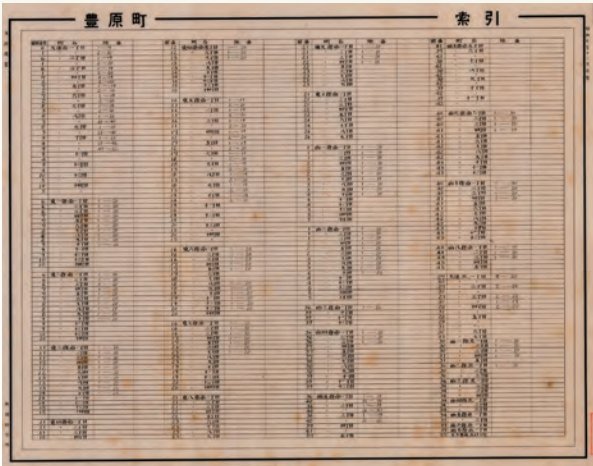
豊原町 地番図

(縮小率29%)



大泊町 地番図

(縮小率28%)



豊原町 索引

(縮小率17%)



大泊町 市街図

(縮小率17%)